

【スーパーグローバル大学】

スーパーグローバル大学創成支援事業 (0140)

平成30年11月14日 (水)

文部科学省

スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）の概要

事業目的

我が国の高等教育の国際競争力の向上のため、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学に対して、重点支援を行い、我が国の高等教育の国際通用性を高めるとともに、国際競争力の強化を図るための環境整備を行う。

背景

- グローバル化の進展により、
- 学生・研究者の流動性が拡大。
 - 高等教育分野における国や地域を超えた競争や調和に向けた動きが加速。
 - 我が国の大学は世界の高等教育マーケットにおける存在感を発揮していくことが喫緊の課題。

（過去の反省）

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）

【事業期間】 H21～H25 【事業目的】 優秀な外国人留学生・教員受入による内なる国際化の推進

【明らかになった課題】

- 多くの外国人学生を惹きつける魅力的プログラムの構築（ジョイント・ディグリー等）や海外展開。
- 外国人と日本人学生の協働・共学の機会促進、優秀な外国人教員を呼び寄せるに足る人事・教務制度。
→ 大学の一部ではなく、大学組織全体の改革が必要。

事業概要

世界トップレベルの大学との交流・連携を実現・加速するための新たな取組や、人事・教務システムの改革、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、国際化を徹底して進める大学の組織体制や組織文化の改革を促進させるため、補助金を時限的に投入し、重点支援。

◆採択校 37大学

○トップ型（13件）

世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援

○グローバル化牽引型（24件）

これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学を支援

日本再興戦略（平成25年6月14日閣議決定）

第Ⅱ 3つのアクションプラン

一、日本産業再興プラン 二、雇用制度改革・人材力の強化

⑥大学改革

・・・必要な制度の見直しを行い、世界と競う「スーパーグローバル大学（仮称）」を創設する。

○人材・教育システムのグローバル化による世界トップレベル大学群の形成

・人材・教育システムのグローバル化、英語による授業拡大など、積極的に改革を進める大学への支援の重点化に直ちに着手する。

※経済界（H30.6.経団連）の提言や最近の政府文書（H30.6.統合イノベーション戦略）においても大学のグローバル化のさらなる促進の必要性に言及。

具体的な取組

- 採択大学は10年間に亘る大学改革の「構想」（**ありたい姿**）を策定し、共通及び大学独自の成果目標と達成目標を設定。
- 当該目標の達成に取り組むことで、各大学の構想の実現を目指す。（採択大学が設定している主な成果指標）

国際化

- ①外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合
- ②全学生に占める外国人留学生の割合
- ③日本人学生に占める単位取得を伴う留学経験者の割合
- ④大学間協定に基づく派遣日本人学生数の割合
- ⑤外国語による授業科目割合
- ⑥外国語のみで卒業できるコースの在籍者割合
- ⑦外国語力基準を満たす学生数の割合
- ⑧シラバスの英語化割合
- ⑨混住型学生宿舎に入居する日本人学生の割合
- ⑩柔軟な学歴の設定（全学でのクォーター制導入等）

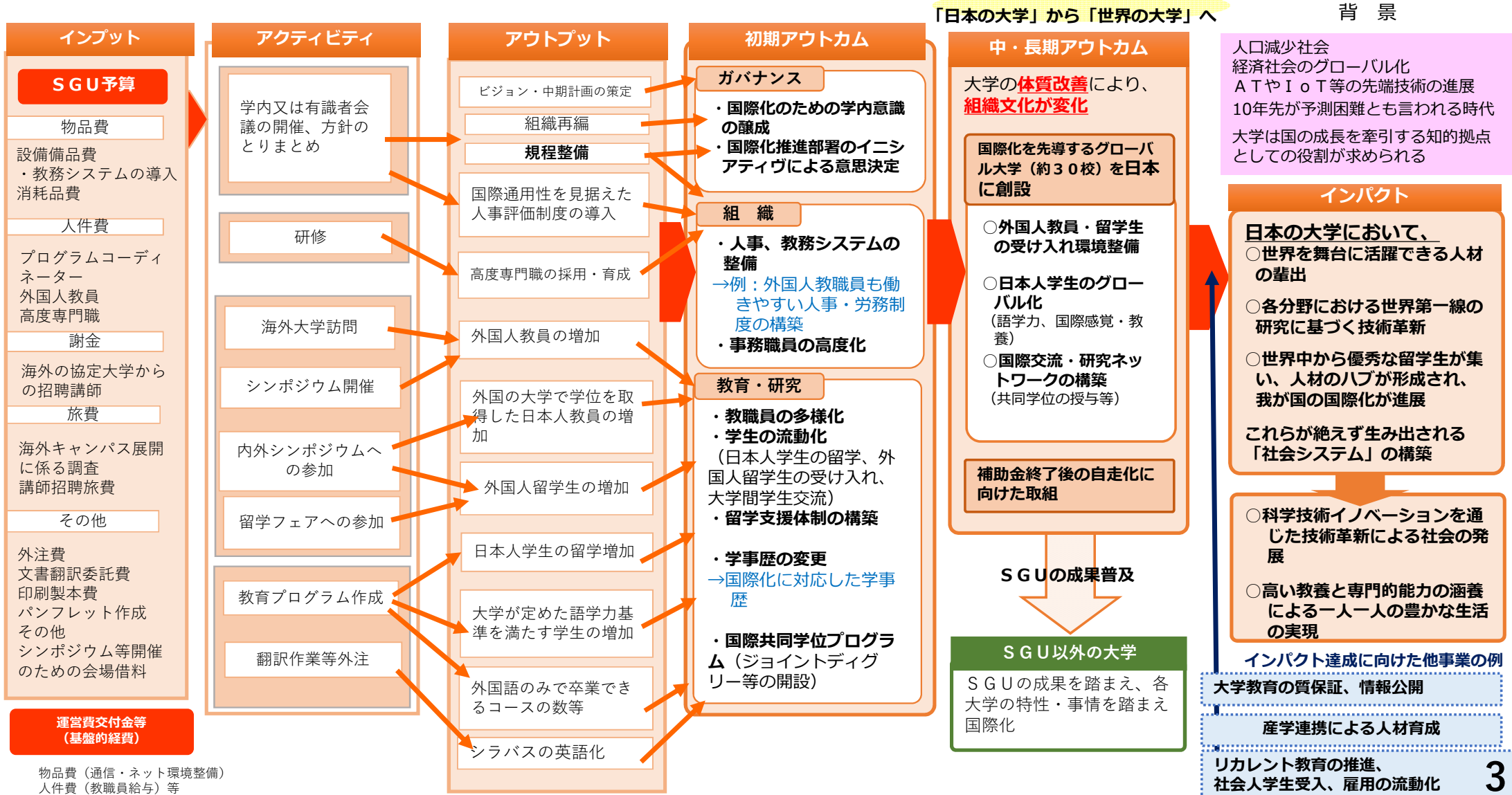
ガバナンス

- ①年俸制の導入割合
- ②テニュアトラックの導入割合
- ③事務職員の高度化（外国語力基準を満たす職員割合）

教育改革

- ①ナンバリング実施割合
- ②TOEFL等外部試験の学部入試への活用割合（対象入学生員）
- ③学生による授業評価実施授業科目割合

事業のロジックモデル



成果の検証（事業全体）

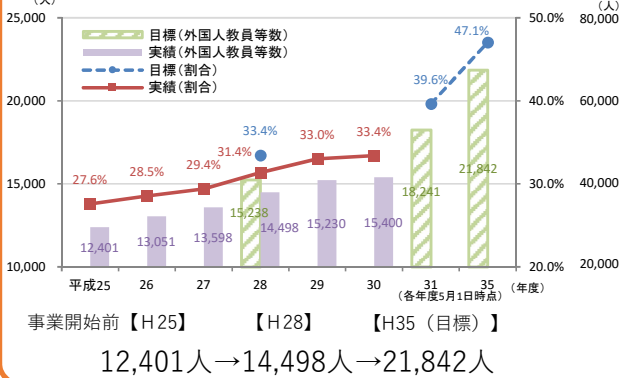
各大学における構想の実現に向けた取組が進むことで、SGU事業全体としての社会的な効果が確認されてきている。

※SGU採択校平均
※目標値の設定はH28、H31、H35の3箇所

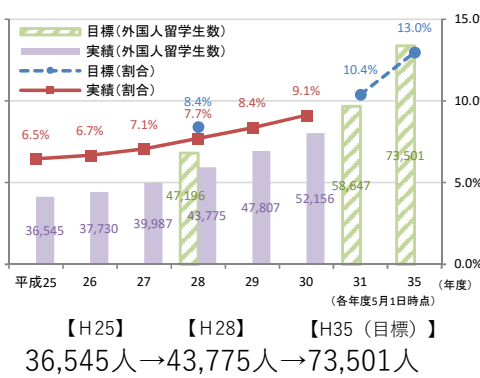
SGU事業全体としてのアウトプット（主なもの）

【国際化】

教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合

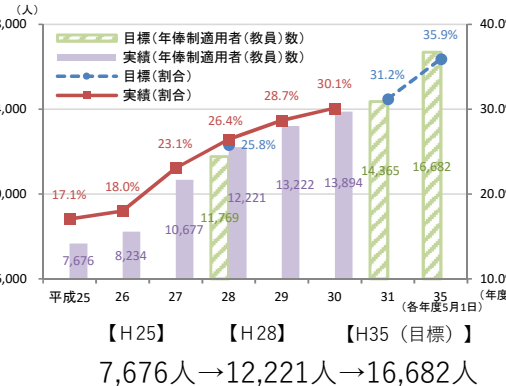


全学生に占める外国人留学生の割合（5月1日時点）



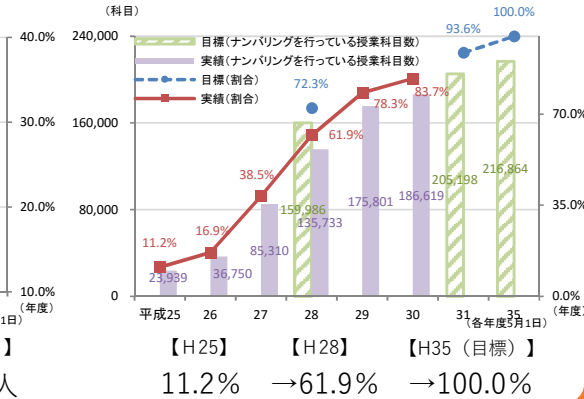
【ガバナンス】

年棒制の導入（教員）



【教育改革】

ナンバリング実施状況・割合



我が国の政策への貢献

総務省の政策評価において、外国人留学生数の増加に対するSGUの貢献が記載。

「外国人留学生は一定程度増加しており、このうち大学への留学生についてはスーパーグローバル大学における増加が大きく寄与」

「平成29年度グローバル人材育成の推進に関する政策評価」（総務省）より



大学ランキング

大学名	国際スコア		
	2012 (H24)	2016 (H28)	2019 (H31)
北海道大学	18.8	27.9	35.3
東北大学	25.6	29.3	37.0
筑波大学	27.2	34.4	42.4
東京大学	23.0	30.3	35.9
東京医科歯科大学	18.0	23.1	26.0
東京工業大学	24.9	31.9	39.4
名古屋大学	21.2	27.4	31.4
京都大学	21.1	26.1	31.1
人阪大学	21.1	26.6	33.4
広島大学	18.8	22.2	29.6
九州大学	19.5	26.4	37.0
慶應義塾大学	18.3	22.7	29.9
早稲田大学	27.1	29.7	36.3

大学ランキングに関する国際スコアはここ数年上昇。

国際スコアの評価項目

- ・外国人留学生比率
- ・外国籍教員比率
- ・国際共著論文比率

Times Higher Education 「世界大学ランキング」におけるSGU選定校（タイプA：トップ型）の国際スコア

成果の検証（各採択校）

採択校においては、ロジックモデルにおける初期アウトカムの実現が確認できるようになっている。

各大学における成果

京都大学

【ジョイント・ディグリーの新規開設】



文学研究科とドイツ・ハイデルベルク大学トランスカルチュラル・スタディーズ・センター（HCTS）の間で、2017年10月に国内初の人文社会系ジョイント・ディグリー専攻となる「国際連携文化越境専攻（修士課程）」を開設。また、医学研究科とカナダ・マギル大学との間で2018年4月に同じく、ジョイント・ディグリー専攻である「ゲノム医学国際連携専攻（博士課程）」を開設。

京都大学としては国際共同学位プログラムの設置が採択前からの国際戦略上の課題であったが、本事業の資金活用により取組が加速し、開設に至った。

- ・ ジョイント・ディグリーは、外国の大学と共同で単一の学位記を授与するもの。優秀な外国人留学生の受け入れや意欲ある若者の外国留学を促進する仕組みとして2014年から認可スタート。
- ・ 我が国の大学と外国の大学が共同で教育課程を編成する等、信頼関係の構築が不可欠。
- ・ 現在16専攻が開設されており、13専攻がSGU採択校。

筑波大学

【国際連携ネットワークの構築】

- 国際連携ネットワークの構築や研究力強化を目的とする「Campus-in-Campus」、「海外教育研究ユニット招致」の取組が順調に進捗。（中間評価でS評価）
- 海外大学（マレーシア工科大学、ボルドー大学等）のオフィスを学内に5箇所設置。今後取組が進めば、大学の国際化・多様化が加速され教育研究レベルの格段の向上が期待。

九州大学

【新学部と国際コースをエンジンとした教育改革・国際化の進展】

- 新たな理念「共創」のもと人類の課題解決に貢献するグローバル人材を育成する **共創学部**がスタート。
①徹底した語学教育、②留学生とのクラスシェア、③留学義務化
④課題解決型カリキュラム、⑤実践的な協働学習、⑥多角的な入試 等の **斬新な取組で教育改革と国際化を先導。**
- 各学部及び各学府（大学院）の国際コースを拡充（62→75）。ダブル・ディグリーの増（6→16）等とも相まって **教育の国際化が進展。**
- 急増する留学生等の受入と国際交流促進のため、地元自治体、企業と連携し **キャンパス周辺に「国際村」を整備**の予定。

豊橋技術科学大学

【グローバル化を全学で進めるガバナンス体制】

- 学長直轄の「**スーパーグローバル大学創成事業推進本部**」を新設した上で、その下にスーパーグローバル **大学推進室**を設置。（室長は米国IT企業出身の教授を任命。）
- 推進室員として、グローバル化の各取組（教育制度、入試制度、グローバル宿舍建設、宿舍教育プログラム、人材循環、英語教育改革、日本語教育改革、広報）を担当する大学の将来を担う中堅教員を配置し、全体の進捗確認と情報共有を行いながら、**必要なアクションは推進本部を通して全学で実施。**
- 特定の組織や教職員のみが関与するのではなく、大学全体でのグローバル化推進と、財政支援期間終了後の継続的事業展開を当初から視野に入れた体制となっている。

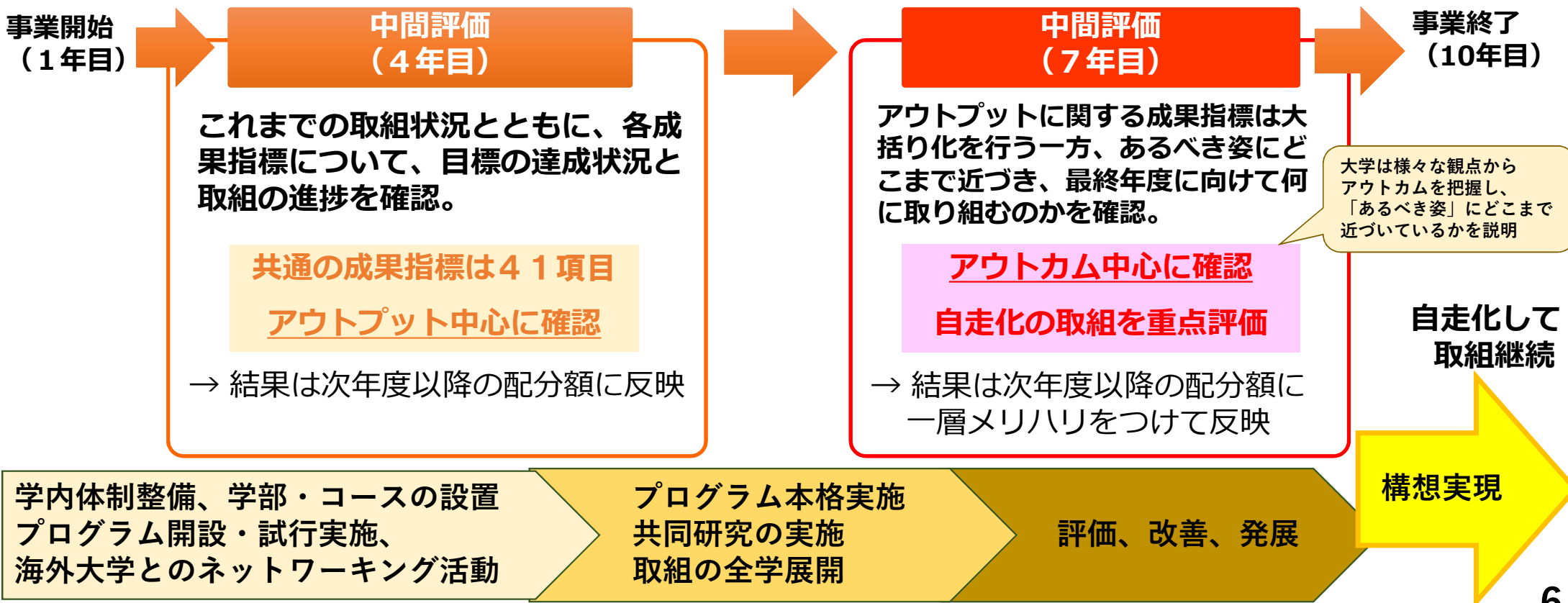
立命館アジア太平洋大学

【国際通用性のある質の高い教育の実現】

- ◆ AACSB(The Association to Advance Collegiate Schools of Business)とTedQual (Tourism Education Quality) という2つの **国際認証を取得**、再認証を目指したプロセスにおいてグローバル基準による質保証の取組を実践。
- ◆ 英語による効果的な授業運営方法や大規模講義における **能動的な学習手法等を学ぶFDプログラムを米国ミネソタ大学と協働で継続的に実施**。専任教員の約3割がプログラムを修了し学んだ知見を学内で共有し質の高い教育を実施。
- ◆ **グローバル教職員開発インスティテュートを設置**し、「アジア太平洋地域のFD/SD活動のハブ」となることを目的として学内外に対して多種多様なFD/SDプログラムを実施。

今後の取組について

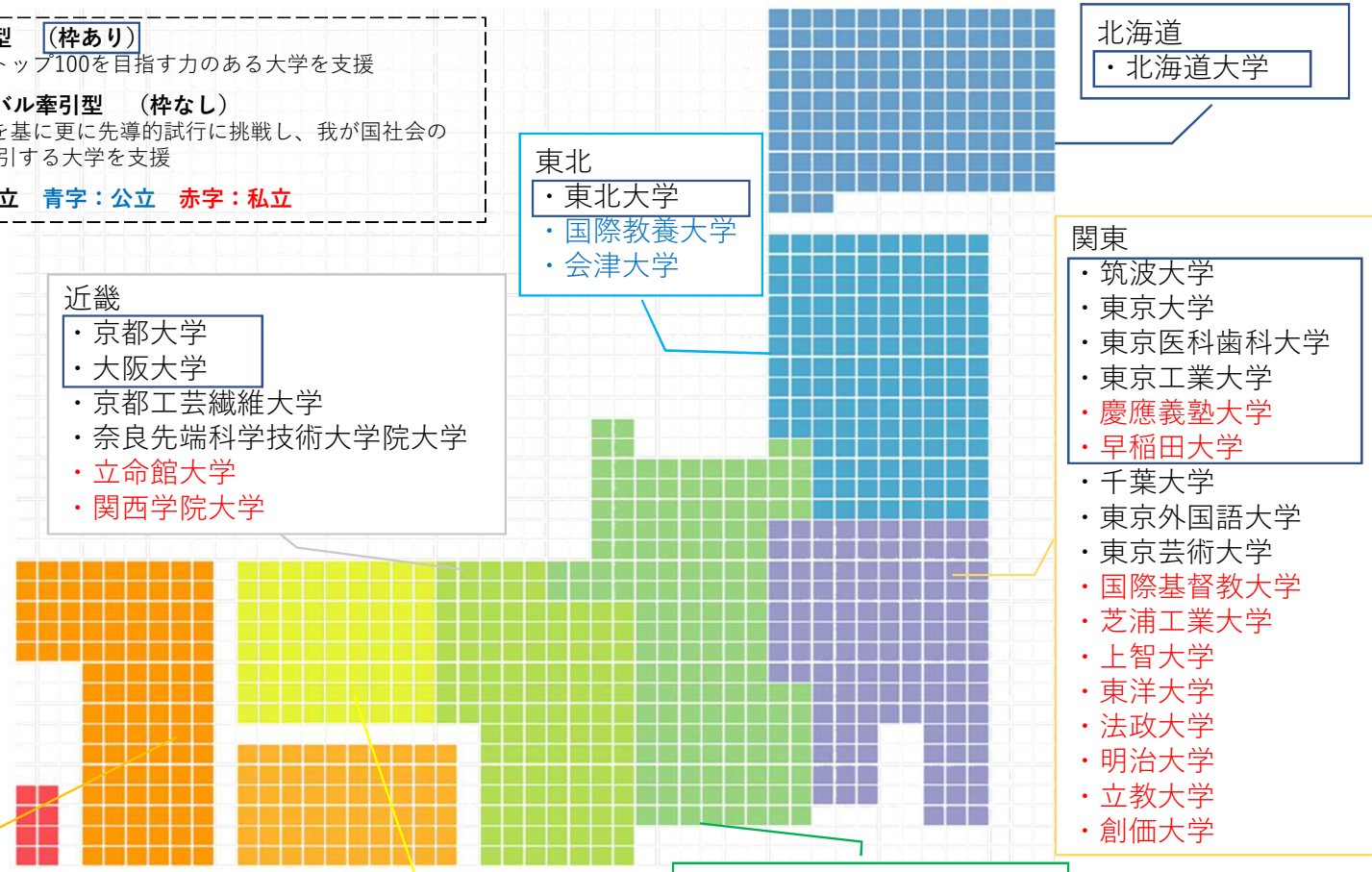
- 平成26年度の事業開始から5年目を迎えた今、これまでの成果をもとに構想の実現を目指す一方、事業期間終了後の自走化の取組を促進することが必要。
- 本事業では事業開始4年目と7年目に中間評価を行うこととしているが、7年目の中間評価では、これまでの中間評価の内容を改めて精査するとともに、自走化の取組について重点評価することとし、結果を踏まえ、一層メリハリのある配分を行うこととしたい。



参 考 资 料

スーパーグローバル大学創成支援事業 採択校

- **タイプA：トップ型** (枠あり)
世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援
- **タイプB：グローバル牽引型** (枠なし)
これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学を支援
- **凡例**： 黒字：国立 青字：公立 赤字：私立



- 北海道
・北海道大学

- 東北
・東北大学
・国際教養大学
・会津大学

- 近畿
・京都大学
・大阪大学
・京都工芸繊維大学
・奈良先端科学技術大学院大学
・立命館大学
・関西学院大学

- 関東
・筑波大学
・東京大学
・東京医科歯科大学
・東京工業大学
・慶應義塾大学
・早稲田大学
・千葉大学
・東京外国語大学
・東京芸術大学
・国際基督教大学
・芝浦工業大学
・上智大学
・東洋大学
・法政大学
・明治大学
・立教大学
・創価大学

- 九州・沖縄
・九州大学
・熊本大学
・立命館アジア太平洋大学

- 中国・四国
・広島大学
・岡山大学

- 北陸・甲信越・東海
・名古屋大学
・金沢大学
・長岡技術科学大学
・豊橋技術科学大学
・国際大学

タイプA：13校
タイプB：24校

事業の評価等（フォローアップ活動と中間評価）

1. フォローアップ活動（毎年度。但し、中間評価の年を除く。）

円滑な実施に資するため、構想段階において取り組むこととしていた各種事項や数値目標についての進捗状況を定性的・定量的に把握し、事業全体の進捗状況及び各大学の優れた取組、特筆すべき成果、課題等についてとりまとめ、その結果をスーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会に報告。

2. 中間評価（4年目・7年目）

- 本プログラムに採択された各大学の事業について、取組状況等を評価するとともに、事業目的が十分達成されるよう適切な助言を行うことで、適切かつ効果的な実施を促す。
- スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会の下に、有識者からなる評価部会を設置。

○中間評価の結果の交付額への反映

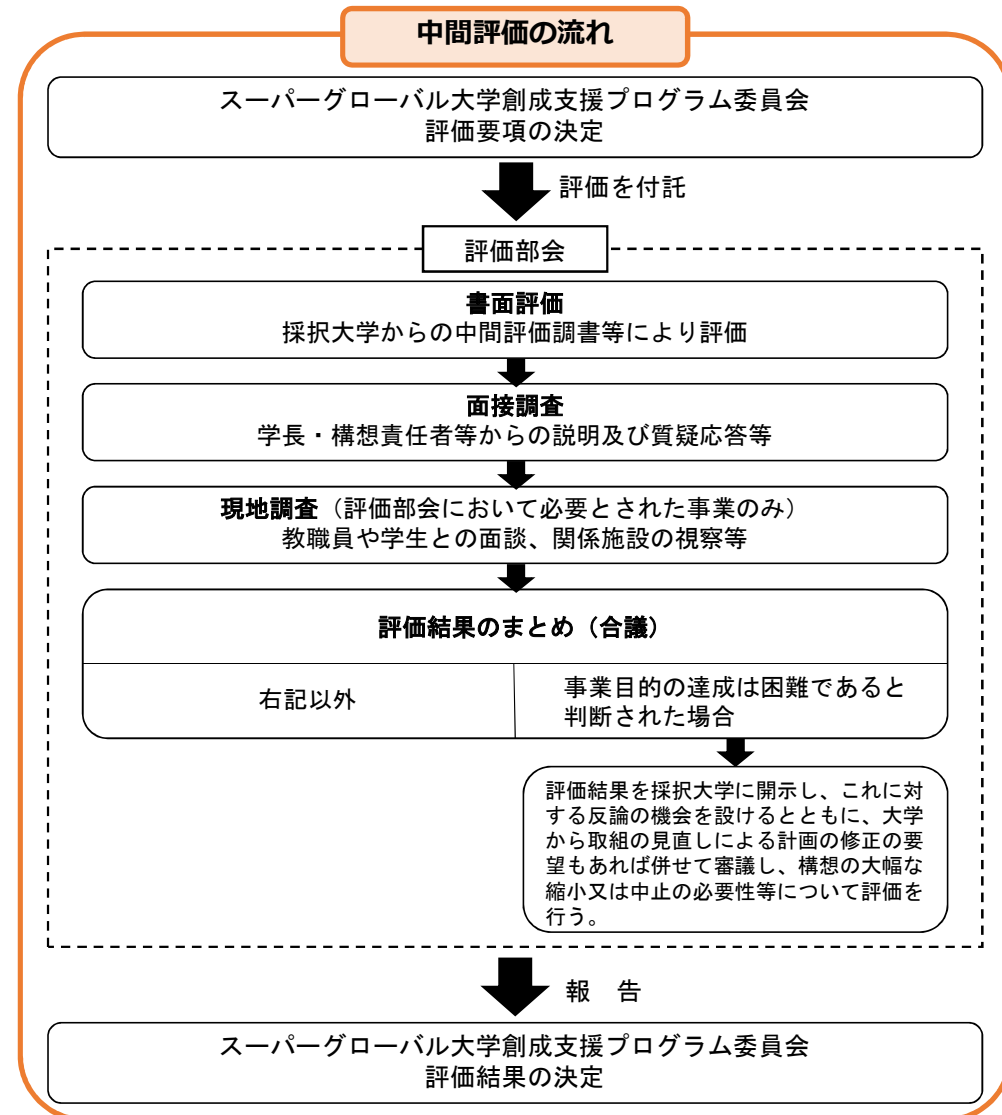
（平成29年の中間評価を受けた平成30年度の交付状況）

S評価（6大学）・・・平均	▲20%（▲5.6～▲28.7%）
A評価（25大学）・・・平均	▲36%（▲25.9～▲43.5%）
B評価（6大学）・・・平均	▲39%（▲36.3～▲44.5%）

SGU予算全体の減（H29:63億→H30:40億（約 ▲37%））のため、全体的に交付額は減ったものの中間評価を反映。

3. 構想の見直し（5年目）

事業開始から5年目には、前年度の中間評価の結果も踏まえ、より有意義な事業の実施に資する、発展的な構想の見直しができる機会を設ける。



中間評価における評価項目と評価方法

I. 項目別評価

1. 取組状況

- 構想の実施状況 (Aタイプ) ○ 国際的評価の向上
- 構想実現のための体制構築 ○ 国際的評価に関する教育・研究力
- 審査結果時の留意事項への対応 (Bタイプ) ○ 大学の特性を踏まえた特徴

2. 目標の達成状況

① 共通の成果指標 (41指標) と達成目標

1. 国際化関連

- 多様性 (4指標)
- 流動性 (2指標)
- 留学支援体制 (2指標)
- 語学力関係 (4指標)
- 教務システムの国際通用性 (4指標)
- 大学の国際開放度 (8指標)

2. ガバナンス改革関連

- 人事システム (4指標)
- ガバナンス (5指標)

3. 教育の改革的取組関連 ※再掲あり

- 教育の質的転換・主体的学習の確保 (※6指標)
- 入試改革 (※3指標)
- 柔軟かつ多様なアカデミック・パス (2指標)

4. その他

- 教育情報の徹底した公表 (1指標)

② 大学独自の成果指標と達成目標

- 各大学の特性を踏まえた特色ある取組

構想の実施状況等、各項目ごとにSABCDで評価

目標の達成状況を13の小項目に分類し、各項目ごとにSABCDで評価

項目別評価の結果を踏まえ、各事業の実績の全体について、SABCDで評価

評価	評語
S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される
B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
C	これまでの取組状況等に鑑み、目的の達成が困難な取組があると考えられ、成果を見込めない取組については縮小・廃止し、財政支援規模の縮小が妥当と判断される。
D	これまでの取組状況等に鑑み、事業目的の達成は著しく困難と考えられ、財政支援の中止が妥当と判断される。

II. 総括評価

書面評価

書面審査後、合議により書面評価結果をとりまとめ

面接評価 (全大学)

書面評価結果の妥当性・評価の変更があるか判断

現地調査 (一部の大学)

必要と判断した事業について詳細に調査

評価結果(案)の作成

合議評価

審議

中間評価の決定

事業期間終了後の財源確保に向けた取組（例）

大学	取組内容
慶應義塾大学	<ul style="list-style-type: none"> ● 2014年度の事業開始時にスーパーグローバル大学創成支援事業基金（第3号基本金）を新設。 ● 毎年度12億円ずつ自己資金により組入れ、2020年度までに総額84億円の基金を準備することを2015年3月の理事会で機関決定した。現在（2017年度末）までに、48億円を計画通り着実に組み入れ。
長岡技術科学大学	<ul style="list-style-type: none"> ● GIGAKU テクノパーク海外拠点を通じて国内中小企業等のグローバル化を促進。海外拠点等を通じた本学の支援により中小企業4社が戦略的海外地域（メキシコ3社、ベトナム1社）への新規海外進出を実現。 ● また、事業開始後平成30年度10月までに国際共同研究費として16社から29,166千円、産学官融合キャンパスの構築等支援のための国際技学共同教育研究事業に会員制を取り入れ43社から6,624千円を獲得。
千葉大学	<ul style="list-style-type: none"> ● SEEDS 基金（千葉大学の寄附金）において、用途特定の寄附金も始め、教育充実だけではなく、留学推進のための寄附も可能となっている。現在、年間で3,000万円程度を留学支援として提供。
東京藝術大学	<ul style="list-style-type: none"> ● クラウドファンディングの活用により、テロ行為により破壊されたバーミヤン遺跡の壁画の完全復元(平成27年度)、世界各国の映像作家によるクラシックの名曲「四季」のアニメ化(平成29年度)などを実施。クラウドファンディングで芸術文化外交や国際共同プロジェクトのための資金を調達する手法を、平成29年4月から全学的に推進している。
国際大学	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業向け研修（ノン・ディグリー・プログラム）を実施し、平成27年度は1.1億円、平成28年度においては1億円という収入を上げた。今後も継続して実施し、企業とのネットワークを更に強化することで、正規生の確保、企業向け研修受講生の確保、奨学金、寄付金の安定的な獲得等を推進し、補助金終了後の財政基盤の安定化の収入源とする。
関西学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ● S G Uの採択を受け、「新基本構想・新中期計画（2009-2018）」の後半5年分の計画の見直しを行った。S G Uの構想における新規施策を同構想・計画に組み込み、その実現のための財源を担保。財政支援が終了した後の平成36（2024）年以降も、事業の継続を前提に前述の総事業費と同規模の財源を計画している。